

第三者意見

大正製薬ホールディングス『社会・環境活動報告書 2014』における当社の取り組みについて、株式会社ワーク・ライフバランスでコンサルタントとしてご活躍の大塚万紀子氏よりご意見をいただきました。



株式会社ワーク・ライフバランス
コンサルタント

大塚 万紀子

2006年、株式会社ワーク・ライフバランス設立に創業メンバーとして参画。ワーク・ライフバランスコンサルタントとして、日本の経営の良さを活かしながら、多様な人材が活躍でき効率的な経営に生まれ変わるための施策の提案や、行政・民間企業のワーク・ライフバランスに関する講演や研修の講師を数多く担当している。厚生労働省「ワークライフバランス事業」検討委員や情報化推進国民会議「少子高齢社会における課題解決に向けて」特別委員会委員など複数の公務を兼務。金沢工業大学大学院ビジネスアーキテクト専攻客員教授。また、二児の母である自らも短時間勤務中。近著に「30歳からますます輝く女性になる方法」(株式会社マイナビ)。

より多様化する社会への対応は高評価

近年、かつての「お客様＝日本人」という構図から、「お客様＝世界中の人々」へと顧客の特性も多様化しています。今年度の『社会・環境活動報告書2014』において特集で取り上げられているマレーシア大正製薬でのドリンク剤「リビタ」がハラル認証を取得している点は、まさに海外のお客様でも安心して利用してもらえるための工夫であり、先んじてダイバーシティ(多様性)の視点を具現化したものと高く評価します。

また、社会活動報告「従業員とともに」の「自己啓発支援制度」にあるように、社員の自己学習を支援する取り組みにより、日常の業務から一步離れた広い視野や高いスキルを身に付ける社員が増えたことでしょう。こうした取り組みが多様な視点を生み、社会への発信や商品への提案に繋がります。

今後も、現地の宗教や言語、ライフスタイル、嗜好性などに応じた対応をしていくことが求められるでしょう。業界のリーディングカンパニーとしてそのニーズに応えていくことを期待しています。

社内のダイバーシティ(多様性)を促進することが今後の成長の鍵

こうしたダイバーシティをもって競争力を維持するためには、社内におけるダイバーシティも大切に育む必要があります。その点で、ワークライフバランスがとれる職場環境であることが非常に重要です。外国人など多様な背景をもつ従業員も視野に入れたいところですが、まずは男女という性別の多様性が十分活かされるような取り組みで成果を上げたいところです。多様性を受容できている職場では、異なる立場・個性をもつ人々が自らの考えを発信し、互いを認め合い、働きやすい環境を醸成し、チームとして機能していく過程で、新たな商品の誕生やマーケティング・PRで効果的な取り組みが生まれます。「多様性を力に変える」ことが成長戦略のひとつといえるのです。

今、日本政府は、2020年までに指導的地位に占める女性

の割合を30%にするという目標を掲げています。これは男性中心の意見で意思決定されていたかつての日本企業のあり方から、女性の意見を有効に取り入れ、ダイバーシティで経済成長を後押しするための施策のひとつといわれています。

この点で、同「従業員とともに」の「女性の雇用・管理職への登用」にあるように、女性従業員比率が27.6%と30%に近く、さらに女性比率が比較的高い研究所での管理職層に占める女性の割合が21.9%と積極的な女性の登用を行っていることは高い評価に値します。

これにとどまることなく、社会的責任を全うすることを重要視するからこそ、より思い切った取り組みで人数や割合を増やすことはもちろん、真に女性の意見や感性を経営に活かすことが期待されます。

「介護」と「育児」と「仕事」の両立を視野に入れた人材活用を

また、同「従業員とともに」の「ワークライフバランス」にある仕事と育児・介護の両立支援制度において、育児に関するサポートは年々充実していることは評価できますが、今後増加が予想される男性の介護休業者・介護を理由とした時間短縮勤務者への支援に物足りなさを感じます。

高齢化が進行するなか、団塊世代が一斉に介護が必要な年齢に突入します。これからは兄弟数が少なく、女性よりも男性の未婚率が高い独身の団塊ジュニア世代が、「介護」と「仕事」を両立させることが迫られます。既婚者であっても共働き世帯が主で晩産化が進む同世代の場合、「介護」と「育児」と「仕事」の両立を余儀なくされることもあるでしょう。

介護は長期化することが一般的であるため、制度設置等の支援では対応しきれないことも予想されます。今回の報告書では労働時間や働き方の見直しに関する言及は見られませんが、一定の時間内で高い成果を上げるための働き方に変えていくことが求められ、その点においても積極的な発信を期待します。